

各位

会 社 名 株 式 会 社 ア ス タ リ ス ク 代表者名 代表取締役執行役員社長 鈴 木 規 之 (コード番号:6522 東証グロース) 問合せ先 取締役執行役員管理統括室長 山 本 和 矢 (TEL. 050-5838-7864)

2025 年8月期 第 2 四半期連結累計期間の連結業績予想と実績の差異ならびに通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社グループは、2024年10月15日に公表した2025年8月期第2四半期(累計)連結業績予想(2024年9月1日~2025年2月28日)と本日発表いたしました実績値との間に差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。また、上記実績ならびに最近の業績の動向等を踏まえ、2025年8月期通期連結業績予想(2024年9月1日~2025年8月31日)について、下記のとおり修正いたしましたので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 第2四半期業績予想と実績の差異ならびに通期修正連結業績予想

(1)2025年8月期第2四半期(累計)(2024年9月1日~2025年2月28日)連結業績予想と実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
(2024年10月15日)	1,160	19	17	2	0.34
実績(B)	875	△15	△18	△23	△3.20
増減額(B-A)	△284	△35	△36	△25	
増減率(%)	△24.6			١	
(ご参考)					
前期第2四半期連結実績	658	△160	△121	△197	$\triangle 27.76$
(2024年8月期第2四半期)					

(2)2025年8月期通期(2024年9月1日~2025年8月31日)連結業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
(2024年10月15日)	2,719	223	218	99	14.03
今回修正予想(B)	2,200	50	39	15	2.03
増減額(B-A)	△519	△173	△179	△84	
増減率(%)	△19.1			١	
(ご参考) 前期実績 (2024 年8月期)	1,578	△224	△176	△389	△54.81

2. 業績予想と実績の差異ならびに業績予想修正の理由等

(1)第2四半期連結累計期間

当社グループは第2四半期連結累計期間において、日本国内市場では商談が概ね計画通りに進行し、株式会社アスタリスクの営業利益は黒字を確保いたしました。一方で、米国市場では小売業界、製造業界、物流業界を中心に大型案件の商談を進めてまいりましたが、顧客の投資時期の遅れや交渉の長期化、AsReader のデモ期間の延長、さらに政権交代による経済政策の変更といった外部環境の影響を受け、受注の進捗に遅れが生じました。これにより、2024年10月15日公表の業績予想と比較し、売上高が284百万円減少しました。

一方で、販売費及び一般管理費につきましては、売上高の減少に対応しコスト削減を実施した結果、計画比で 116 百万円の削減を達成しました。しかしながら、営業利益は 35 百万円の減少となりました。

(2) 通期連結会計年度

通期の連結業績予想につきましても、2024年10月15日公表時点の予想と比較し、業績の見通しを修正することとなりました。主な要因として、米国市場における小売業界、製造業界、物流業界の大型案件に関する交渉の長期化、AsReaderのデモ期間の延長、さらに政権交代に伴う経済政策の変化による影響が想定以上に大きく、受注の進捗に遅れが生じていることが挙げられます。その結果、売上高は280百万円減少し、営業利益は120百万円の悪化となる見通しです。

また、日本国内市場においても、新規事業や新製品の導入スケジュールの遅延、大型案件の導入時期の延期、商談の長期化により、売上高が242百万円減少し、営業利益は30百万円の悪化が見込まれます。これらの状況を踏まえ、通期の業績予想を下方修正する判断に至りました。

(3)今後の展開

当社グループは、こうした環境変化を踏まえ、今後の成長戦略を加速させてまいります。米国市場では、現在進行中の大規模プロジェクトの商談を着実に成約に結びつけ、売上および利益の向上を目指します。特に、現地での営業活動を強化し、交渉の迅速化を図ることで、受注の確度を高めてまいります。

日本国内市場においては、新規事業や新製品の開発を加速させ、早期の市場投入を実現することで収益機会を拡大いたします。特に、顔認証技術やデジタルショーケース関連の案件が具体的に動き始めており、大阪メトロや大阪万博での社会実装を通じて市場認知度を向上させるとともに、販売促進施策を強化してまいります。

さらに、革新的な技術である「AsCode」や「リニア」の開発を加速し、第 20 期以降の売上および利益への貢献を目指しております。特に「AsCode」については、米国で開催される「RFID Journal LIVE」にて RFID と融合した最新ソリューションを展示する予定であり、グローバル市場での認知拡大を図ります。

当社は、これらの取り組みを通じ、日米両市場において持続的な成長と企業価値の向上を目指してまいります。

※本資料に記載されている業績予想及び配当予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する主旨のものではありません。 実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

今後の業績動向等に修正が必要となった場合には、速やかに公表いたします。